

目次

第1章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

- 1 計画策定の目的
- 2 子ども読書に関する国及び県の方針
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の対象
- 5 計画の期間

第2章 第3次酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

- 1 酒田市の現状
- 2 重点施策の取り組みと評価
- 3 今後の課題

第3章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

- 1 計画の目的
- 2 基本方針
- 3 重点施策及び数値目標

第4章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて

- 1 ワークショップの開催
- 2 関連施策・事業一覧

資料編

- ・計画の体系図
- ・アンケート結果
- ・ワークショップの概要と結果

第1章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

1 計画策定の目的

国の基本理念では、「子ども（おおむね18歳以下の者）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう環境の整備が推進されなければならない」としています。

本計画は、子どもの読書活動を推進するための施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的とし、本市としての方向性や取り組みを示すものです。

子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、近年のインターネット・SNS等の情報メディアの発達・普及による社会のデジタル化の進展やGIGAスクール構想による学校のICT環境の整備等、読書活動にも影響を与えたと考えています。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休校や市立図書館の休館、学校での朝読書の廃止など、読書習慣の定着を阻害する要因が増えています。

多様な読書環境に身を置く子どもたちに対し、読書機会の確保やデジタル社会に応じた読書環境の整備などを推進していきます。また、家庭、地域、学校・園等社会全体で、自ら本に親しむ、読書好きな子どもを育み、子どもの豊かな心の育成を目指し策定いたします。

2 子ども読書に関する国及び県の方針

【国の動向】

平成13年12月に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づいて、平成14年8月、施策の基本的な方向性と具体的な方策を示し

た「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。以降、おおむね5年ごとに改正され、子どもの読書活動を推進しています。

令和5年3月には第5次計画が策定され次の4つの基本方針が定められています。

- 1 不読率の低減
- 2 多様な子どもたちの読書機会の確保
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 4 子どもの視点に立った読書活動の推進

そして、子ども読書活動の推進に当たっては、家庭、地域、学校等が中心となり、社会全体で取り組む必要がある、としています。

【県の動向】

平成16年3月に策定された「第5次山形県教育振興計画」で「本が好きな子どもを育てる」として子どもの読書活動推進の取組みがはじまり、平成18年2月に「山形県子ども読書活動推進計画」が策定されました。

令和6年3月に策定された第4次計画では、「家庭・地域・学校等、社会全体で子どもの読書活動を推進し、子どもの豊かな心を育成する。」を計画策定のねらいとし、次の3つの柱をすえ6つの施策に取り組んでいくとしています。

柱Ⅰ 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での多様な子どもの読書活動の推進

- 1 多様な子どもの可能性を引き出す、発達段階に応じた取組みや個別最適な読書活動の実現、読書機会の確保
- 2 子ども一人一人が好きな本を選択し、好きな時間・場所で、主体的に読書が行える、子どもの視点に立った読書活動の推進

柱Ⅱ 多様な子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備その他諸条件の整備充実

- 1 公立図書館（室）及び学校図書館等におけるDX推進と、デジタル社会に対応した読書環境の整備・充実
- 2 図書館間及び関係機関等の連携促進

柱Ⅲ 子どもの読書活動に関する意義の理解促進

- 1 子どもの主体的な読書活動を推進する社会的な気運の醸成
- 2 子どもの読書活動を推進する特色ある取組みの奨励及び事例紹介

3 計画の位置付け

「子ども読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定では、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策の計画策定の努力義務が定められています。

本計画は、国の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月策定）」と県の「第4次山形県子ども読書活動推進計画（令和6年3月策定）」を基本とし、酒田市総合計画（後期計画）、第2期酒田市教育振興基本計画（後期計画）との整合性を図りながら策定するものとします。

4 計画の対象

この計画の対象は、主に0歳からおおむね18歳までの子どもとします。

また子どもの読書環境の整備には、子どものみならずその保護者、保育園・幼稚園等の保育士、学校の教職員など、日々子どもに接する大人のかかわりが非常に重要であることから、取り組みの主体は、大人を含む全ての市民としています。

5 計画の期間

令和8（2026）年度からおおむね4年間とします。

第2章 第3次酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

1 酒田市の現状

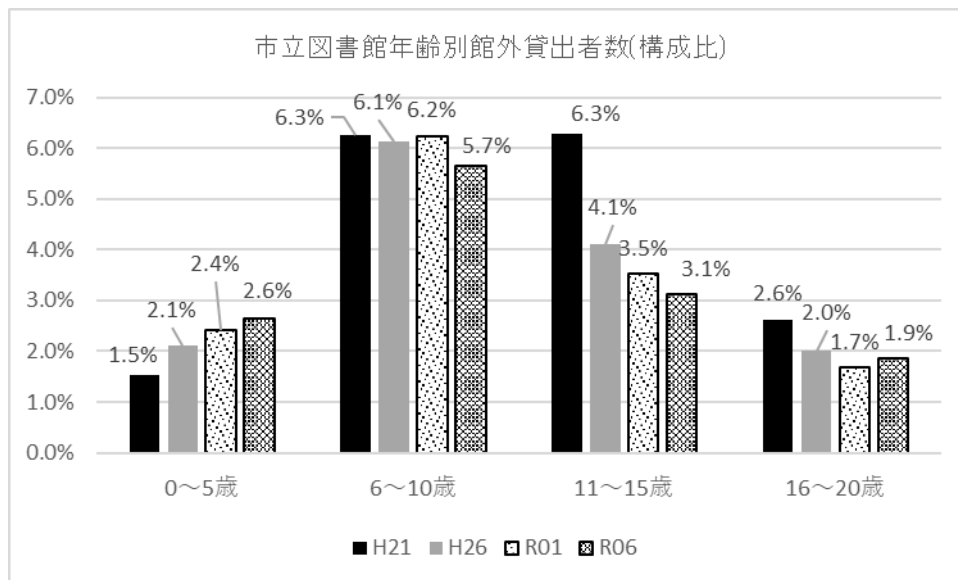
(1) 新中央図書館（ミライニ）の開館

令和4年5月、中央図書館がミライニに移転し、指定管理者（株）図書館流通センター）による運営を開始しました。ミライニでは様々なイベントを企画しており、来館者に対して「家読」の啓発活動を行っています。また、子ども読書活動の推進に係る企画も多く開催しており、参加者からは好評を得ています。

新館移転時の図書整理の際に除籍作業を行ったため、令和4年度は蔵書冊数が減少したものの、開架および閉架が広がったため、順調に蔵書数は増加しています。また、館外貸出人数、館外貸出冊数および入館者数は大幅に増加しています。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
蔵書冊数(冊)	329,994	338,264	337,195	343,791	369,694
館外貸出人数(人)	125,752	113,856	141,711	163,229	154,469
館外貸出冊数(冊)	385,839	378,035	428,983	481,143	442,448
入館者数(人)	216,027	214,997	553,390	496,573	544,095

以下の表は年代別の館外貸出者の構成比です。



0~5歳の乳幼児期の館外貸出者数（構成比）は順調に増加しており、ブックスタートやベビーハグなどの取り組みの結果、保護者の読み聞かせ（読書習慣）の意識が高まっていることが読み取れます。

6歳～15歳の小学生・中学生世代については、年々減少しており、後述の学校図書館の貸出冊数の低下と合わせ、学校・家庭・地域・図書館が一体となって読書活動の推進を考えることが重要です。

16歳～20歳の高校生・大学生世代については、令和元年から増加しています。新館移転後は高校生の利用率が高く、特にテスト勉強期間は席が不足するほどであり、勉強に来た学生に対してどのように読書を薦めるかが重要です。

(2) 図書館を使った調べる学習コンクールの開催

①経過

市立図書館の新たな取り組みとして、令和6年度から「酒田・飽海 図書館を使った調べる学習コンクール」開催しました。指定管理者の提案による事業で、遊佐町立図書館と共催・協力して運営しています。

②概要

「図書館を使った調べる学習コンクール」は、公益財団法人図書館振興財団が主催し、文部科学省等が後援する全国コンクールです。学校教育・生涯学習の学習方法として有効な調べ学習の推進と、図書館の利用促進を目的として開催されています。また、地域コンクールの実施により、郷土愛の醸成をはじめ地域づくりや地域活性化につながる波及効果も期待されます。

令和6年度の全国コンクールでは、自治体の枠を超えたコンクールの展開が評価され、酒田市立図書館が「図書館を使った調べる学習活動賞」を受賞しました。（詳細は資料編を参照）

③作品制作の支援

- ・学校への出前講座の実施
- ・図書館での調べ学習支援プログラム「ミライニクエスト」の開催
- ・図書館での支援（レファレンス）
- ・関連企画の実施（クラフト体験ワークショップ、昆虫標本ワークショップ等）

2 重点施策の取り組みと評価

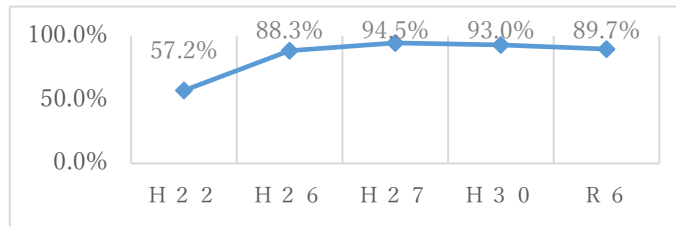
①ブックスタート事業

目標指標：ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合※

【目標】 96%

【実績】 89.7%（令和6年度）

【前回】 93.0%（平成30年度）



- ・目標値には届かなかったものの、高い水準で受け取った絵本が活用されており、保護者のニーズも高く、本を活用して子どもと触れ合う時間を大切にすることができています。
- ・アンケートの中には、ブックスタートをきっかけに絵本に興味を持ち、図書館に行ったり、読み聞かせ会に参加したりするようになったという保護者もいます。

※第3次計画までは目標指標を「乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合」と設定していたが、実際は「ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合」であったため、修正したもの。

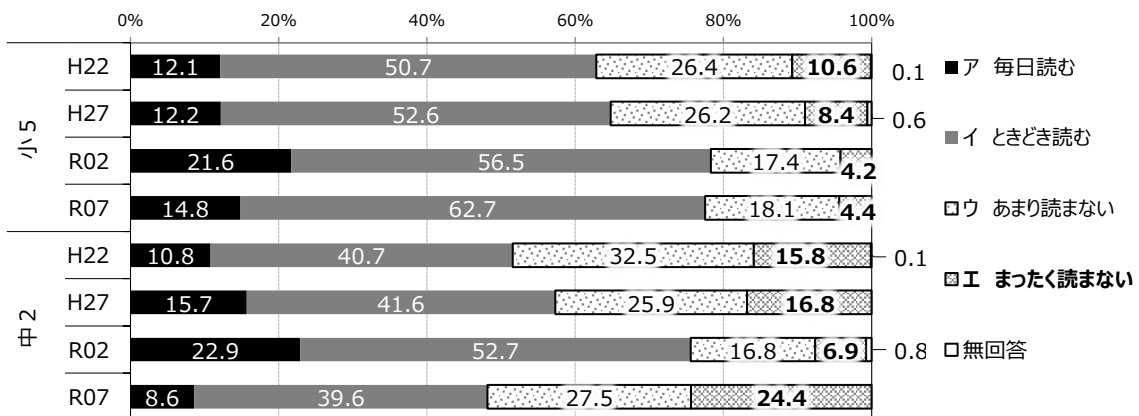
②読書の意義と重要性の広報

目標指標：1か月間にまったく本を読まない児童生徒の割合（不読率）

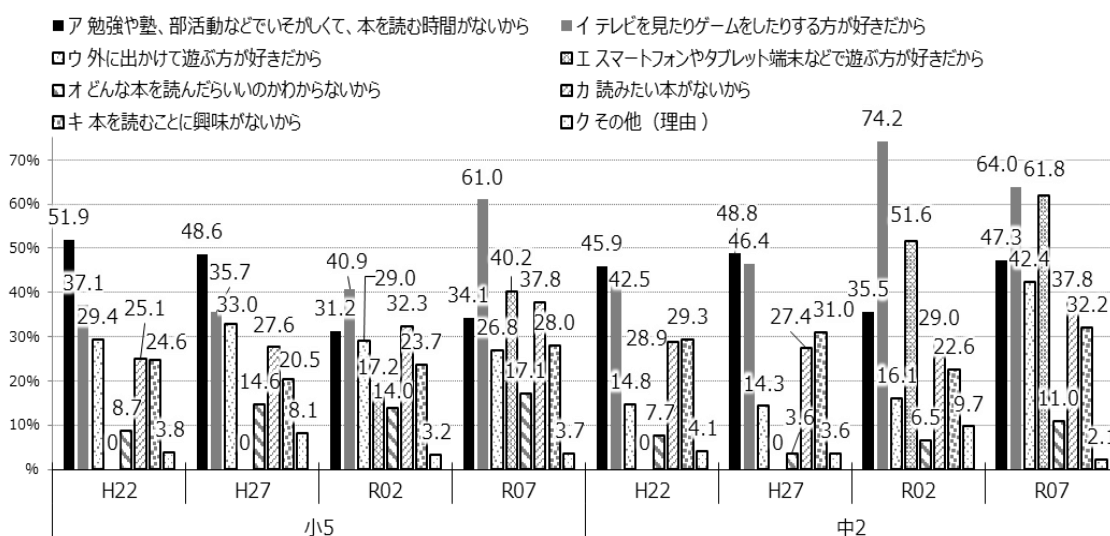
【目標】 小学生 0% 中学生 0%

【実績】 小学生 4.4% 中学生 24.4%（※令和6年度参考値）

【前回】 小学生 3.0% 中学生 7.6%（令和2年度）



- ・令和6年度実績値は、「学校以外でどれくらい本を読むか」という問いのため、学校での読書活動を除いた参考値です。



- ・前回調査から比較し、本を読むことよりもテレビ、ゲーム、スマートフォン等で遊ぶ方が好きという回答が多く、コロナ禍で外出を控える生活習慣が定着してしまっただ可能性があります。
- ・読みたい本がないという回答も増え、利用者のニーズに対応した資料収集を心がけていきたいです。
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ等の多様な取り組みが行われている学校もありますが、朝読書を廃止した学校が増えています。

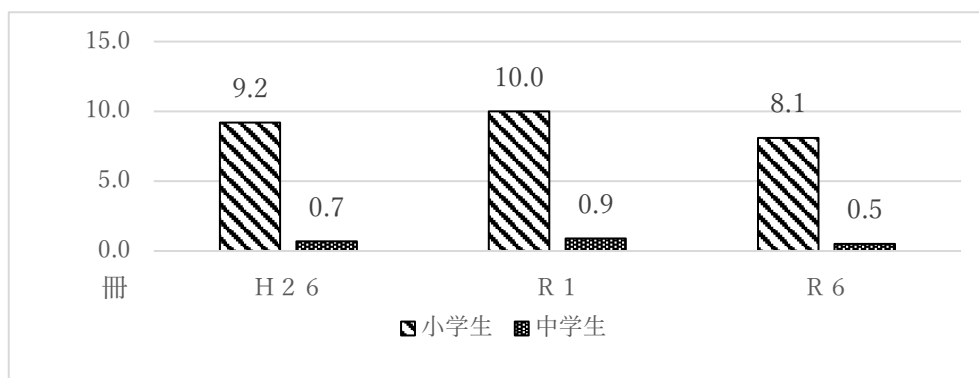
③魅力ある学校図書館づくり

目標指標：学校図書館の児童生徒一人当たりの月間貸出冊数

【目標】小学生 12冊／月 中学生 2冊／月

【実績】小学生 8.1冊／月 中学生 0.5冊／月（令和6年度）

【前回】小学生 10.0冊／月 中学生 0.9冊／月（令和元年度）



- ・小学生、中学生ともに貸出冊数が低下しており、特に中学生は学校における読書活動が危機的な状況です。

- ・毎年4月に「図書専門員研修会」を行い、学校内での図書専門員の職務の確認や情報交換の場を設定しています。また、市立図書館の職員が講師となって、本の修理や選書の仕方を学ぶ研修も実施しています。
- ・令和5年度は読育アドバイザーの講演会を開催し、図書専門員として必要な知識や技術の習得の支援を行いました。
- ・令和7年度はワークショップを開催し、図書専門員間の情報共有と子どもの読書率を高める取り組みについて意見交換を行いました。（第4章にて後述）

④読書活動の推進

目標指標：市立図書館の児童図書年間貸出冊数（15歳以下の子ども一人当たり）

【目標】（12.7冊／年より）増加させる

【実績】14.5冊／年（令和6年度）

【前回】12.7冊／年（平成30年度）

- ・MIRAINI365Booksとして、インスタグラムと紙通信で火・木曜日は絵本、土曜日はヤングアダルト、日曜日は児童書の読書案内をしました。
- ・「絵本だより」「本だより」を年4回発行して保育園・小学校に配布、図書館内に設置して本を紹介しました。

⑤読書離れ世代の読書関心向上

目標指標：市立図書館の年間館外貸出冊数（16～20歳1人当たり）

【目標】3.0冊／年

【実績】1.6冊／年（令和6年度）

【前回】1.8冊／年（令和2年度）

- ・市内高等学校の図書委員の生徒や、図書館で職場体験をした生徒等が、自分のおすすめ本を手作りポップで紹介するコーナーを設けています。

⑥家読（うちどく）の推進

目標指標：家族間で本に関することを話題にする児童生徒の割合

【目標】小学生70% 中学生50%

【実績】小学生40.3% 中学生29.7%（令和6年度）

【前回】小学生53.8% 中学生46.6%（令和2年度）

- ・年一回、幼児向け、小学校1～3年生向け、小学校4～6年生向け、中学生向けに、家読おすすめ本リストを発行し、学校に配布しています。
- ・「家読講座」で、読書手帳の配布と図書館システムを活用したシールの出し方等の周知を図りました。

3 今後の課題

①ブックスタート事業

受け取った絵本を活用している保護者の割合は目標を下回ったものの、まったく活用していないという保護者はおらず、アンケートに回答したすべての保護者が事業の継続を希望しています。

市立図書館へ本を借りに来るのが難しい保護者の方に対しても、子どもの成長に応じた本の紹介等ができるよう健康診査に合わせ、ブックスタートのフォローアップとして絵本の紹介チラシを配布することで、読書活動への継続的な支援を行います。

②読書の意義と重要性の広報 ③魅力ある学校図書館づくり

④読書活動の推進

⑥家読（うちどく）の推進

学校以外で読書をまったくしないという中学生の回答が、前回調査よりも3倍以上に増えました。朝読書をしていない学校も増え始めており、このままでは学校でも家でも読書をしない不読者が増えてしまう懸念があります。読書環境を整備し、市立図書館に来なくても、学校図書館で市立図書館の本を読んでもらえるよう、市立図書館と学校図書館がさらに連携していく必要があります。また、図書館のみならず、家庭や地域とともに読書環境の整備と活動の推進を図ります。

⑤読書離れ世代の読書関心向上

市立図書館の年間館外貸出冊数（16～20歳1人当たり）のR6年度実績は、1.6冊/年と前回R2の1.8冊/年よりも減少しましたが、高校生の来館者が少ないわけではありません。ミライニの学習スペースに勉強に来る高校生は多いですが、本の貸し出しにまではつながっていない状況があります。学習スペースに近い書架にヤングアダルト、マンガ等の多くの高校生が興味関心をもつ分野の本を配架しており、高校生の動線を考慮した開架づくりを心がけています。

高校生らが館内でマンガ等を読む姿を見かけますが、貸出手続きをせずに本を読む場合は貸出冊数には含まれないため、実際の読書活動は数字よりも高いものと考えられます。ミライニが入る複合施設は貸出手続きをせずに建物内で読書が可能であることが特色であり、実態の把握には工夫が必要です。

おすすめ本の紹介ポップ作成や企画展示のアイデア出しなどを高校生自らが参画することで関心を高め、一緒に図書館を運営していくことが重要です。またミライニで実施している様々なイベントも活用して、読書や本の貸し出しにつなげていきたいです。

第3章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

1 計画の目的

子どもが自ら学び、考え、人生をより深くより豊かに生きる力を育む

2 基本方針

1 読書を楽しみ、本に親しむ機会を増やす

子どもと本をつなぐ取り組みを行うことで、生活の中に子どもと本の接点をつくり出し、子どもたちが読書の楽しさを味わい、充実感や満足感を得る機会、本に親しむ機会を増やします。また、子どもの自主性から生まれる読書を支援し、子どもの視点に立った読書活動を推進します。

2 幼少期から読書習慣を身につけ、生涯にわたり継続できるよう支援する

乳幼児期からの読み聞かせを推進し、発達段階に応じた読書活動を支援することで読書習慣の定着を図ります。また、子どもたちが読書を通じて、主体的に学ぶ楽しさや知る喜びを体験することで、生涯にわたる探究心を培います。

3 学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る

子ども読書活動の推進には、子どもと関わる大人自身が活動の意義や重要性について理解し、支援する体制と機運をつくりあげていくことが不可欠です。そのためには、学校・家庭・地域・図書館が一体となり、協力して子どもたちの読書環境の充実に取り組まなければなりません。また、本や読書が好きな子どもがやがて大人となり、子どもたちの読書活動を支援するという、世代を超えた読書活動推進の循環が形成されることも期待されます。

3 重点施策及び数値目標

No.	施策	目標指標	計画策定以前	→		第1次	第2次	第3次	第4次 目標数値
				(平成23～27年度)	(平成28～令和2年度)	(令和3～7年度)	(令和8～11年度)		
1	ブックスタート事業	ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合	57.2 % <small>(平成22年度調査)</small>	目標値	80 %	96 %	96 %	96 % (継続)	
				実績	94.5 % <small>(平成27年度調査)</small>	93.0 % <small>(平成30年度調査)</small>	89.7 % <small>(令和6年度調査)</small>		
2	読書の意義と重要性の広報	1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合	小学生 1.6 % 中学生 9.6 % <small>(平成21年度調査)</small>	目標値	小学生 0 % 中学生 5 %	小学生 0 % 中学生 0 %	小学生 0 % 中学生 0 %	小学生 0 % 中学生 0 % (継続)	
				実績	小学生 0.7 % 中学生 5.8 % <small>(平成27年度調査)</small>	小学生 3.0 % 中学生 7.6 % <small>(令和2年度調査) ※参考値</small>	小学生 4.4 % 中学生 24.4 % <small>(令和7年度調査) ※参考値</small>		
3	魅力ある学校図書館づくり	学校図書館の児童生徒1人当たりの月間貸出冊数	小学生 6.6 冊/月 中学生 0.6 冊/月 <small>(平成20年度調査)</small>	目標値	小学生 7.5 冊/月 中学生 1.5 冊/月 <small>(教育振興基本計画より)</small>	小学生 10 冊/月 中学生 2 冊/月 <small>(教育振興基本計画(後期)より)</small>	小学生 12 冊/月 中学生 2 冊/月 <small>(教育振興基本計画(後期)より)</small>	小学生 12 冊/月 中学生 2 冊/月 <small>(第2期酒田市教育振興基本計画(後期)より)</small>	
				実績	小学生 9.2 冊/月 中学生 0.7 冊/月 <small>(平成26年度実績)</small>	小学生 10.0 冊/月 中学生 0.9 冊/月 <small>(令和元年度実績)</small>	小学生 8.1 冊/月 中学生 0.5 冊/月 <small>(令和6年度実績)</small>		
4	読書活動の推進	市立図書館の児童図書の間貸出冊数(15歳以下の子ども1人当たり) ※1	10.7 冊/年 <small>(平成21年度実績)</small>	目標値	12.1 冊/年	12.7 冊/年	増加させる	増加させる <small>(第2期酒田市教育振興基本計画(後期)より)</small>	
				実績	11.9 冊/年 <small>(平成26年度実績)</small>	12.7 冊/年 <small>(平成30年度実績)</small>	14.5 冊/年 <small>(令和6年度実績)</small>		
5	読書離れ世代の読書関心向上	市立図書館の年間館外貸出冊数(16～20歳1人当たり) ※1、※2	/	目標値	/	/	3.0 冊/年	3.0 冊 (継続)	
				実績	/	1.8 冊 <small>(令和元年度実績)</small>	1.6 冊 <small>(令和6年度実績)</small>		
6	家読(うちどく)の推進	家族間で本に関する話を話題にする児童・生徒の割合	/	目標値	/	小学生 70.0 % 中学生 50.0 %	小学生 70.0 % 中学生 50.0 %	小学生 70 % 中学生 50 % (継続)	
				実績	小学生 49.4 % 中学生 31.9 % <small>(平成26年度調査)</small>	小学生 53.8 % 中学生 46.6 % <small>(令和2年度調査)</small>	小学生 40.3 % 中学生 29.7 % <small>(令和6年度調査)</small>		

※1 該当年代の貸出数を、市の該当年齢人口で割ったもの

※2 市立図書館の統計の区分が5歳刻みであるため、19歳・20歳の数値も含まれる

第4章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて

1 ワークショップの開催

(1) 経過

読書習慣の定着に重要な小学生期、中学生期の読書活動推進において、学校図書館が果たす役割は大きく、第3次計画からの変更点として、基本方針に「学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る」を加えました。そこで、学校図書館の運営を担う図書専門員（各小中学校に配置）を対象に、ワークショップを開催しました。

(2) 概要

ワークショップは、図書専門員間の情報共有と子どもたちの読書率を上げる取り組みについての検討を目的に、2日間開催しました。検討の結果、以下の3点について意見をいただきました。（詳細は資料編を参照）

①学校図書館の本の紹介、PR

- ・学校図書館の新着本について、家庭に案内する
- ・図書委員がおすすめ本の紹介文を作成し、冒頭部分を校内放送で紹介する
- ・教員が本の推薦文を作成し、写真とともに本を紹介する
- ・おすすめ本のPOPを作成し、学校間で共有する

②学校図書館の運営の工夫

- ・各学校の図書館の様子を写真に撮り、工夫している点や悩みを共有

③市立図書館との連携

- ・市立図書館の本の貸出と返却を各学校でできるような仕組みを構築する
- ・学校図書館と市立図書館の図書管理システムを統合し、横断検索が可能にする

2 関連施策・事業一覧

基本方針1

読書を楽しみ、本に親しむ機会を増やす

①読書を楽しむ

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
01	◇「絵本作家講演会」の開催	・絵本作家等による講演会等の実施	市立図書館
02	◇市立図書館の夏休み企画展示	夏休み期間中に読書感想文向けの課題図書や指定図書、工作、自由研究向け参考図書等の展示をするコーナーを設置する。	市立図書館
03	◇親子手作り絵本講座	「親子手作り絵本講座」創作したお話と自分の描いた絵により絵本を作成するワークショップを開催する。	市立図書館
04	◇読書イベントの開催	・ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの書評合戦「ビブリオバトル」や、一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介する「ブックトーク」等「人を通して本を知る、本を通して人を知る」イベントの開催	市立図書館

②本に親しむ機会を増やす

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
05	◇市立図書館の図書のPR	・広報、HP、情報サイト等での市民向け広報活動の実施	市立図書館
06	◇中央図書館での郷土作家コーナーの常設・活用	中央図書館に常設される「郷土作家コーナー」を発信拠点として、子どもたちがふるさとを知る・学ぶツールとしての本など資料の提供や、酒田の自然や文化・人をより身近に感じられる場を創出する。	市立図書館
07	◇「絵本だより」の発行	・新刊や人気の本等の情報提供	市立図書館
08	◇市立図書館利用登録申込カード（子ども用）の配付	ブックスタート時に配布。乳児期からの図書館利用へのきっかけに。	市立図書館
09	◇「読書手帳（乳幼児版、小学校1～3年生版）」の作成、配付	（乳幼児版） ブックスタート時に配布。読んであげた本を記録することで、親子の触れ合いの思い出を残していく取り組み。 （小学校1～3年生版） 読んだ本を自分で書いて記録に残すことで読書活動の振り返りや新たに読む本を選ぶ時の参考にすることができる。また、コミュニケーションツールとして利用することで、家族だけでなく友だちとも本を介した交流を広げ、読書に対する興味・関心を高めるきっかけをつくる。	市立図書館
10	◇市立図書館でのこどもの読書週間行事の開催	・通常の企画展示に加え、児童図書関連の企画展示を多く実施	市立図書館
11	◇市立図書館除籍資料のリサイクル	市立図書館の除籍した本（リサイクル図書）を利用したい方に無償で提供	市立図書館

③もっと図書館を活用する

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
12	◇学校巡回文庫の実施	国語教科書の単元に関連して紹介されている本を基本として、それに教科書の巻中、巻末等で紹介されている本の中から子どもたちが選んだ本を加えたセットを市立図書館より貸し出す。(対象学年：小学校6年生・中学校1年生)	市立図書館
13	◇市立図書館の団体貸出の実施、利用促進	市立図書館の本を利用しやすいよう、学校や認可保育所、認定こども園、幼稚園、学童保育所等団体向けに、貸出期間を長く、貸出上限冊数も多く設定して市立図書館の本を貸出する。	市立図書館
14	◇図書館を使った調べ学習の推進と講座の開催	子どもが自らの関心に基づいてテーマを設定し、図書館やインターネットを活用して学び、調べ、その過程を作品にまとめて「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加により調べ学習の推進を促すもの。事前に開催する「調べる学習」に関する講座により、児童生徒の作品制作をサポートする。	市立図書館 学校教育課

基本方針2

幼少期から読書習慣を身につけ、生涯にわたり継続できるよう支援する

①読書習慣を身につける

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
15	◇ブックスタート支援事業(3か月児健康診査時)	3か月児健康診査時に読み聞かせ体験と、絵本や情報紙を配付。絵本をとおした親子の触れ合いのきっかけに。 ・赤ちゃん向けおすすめ本の展示・紹介 ・赤ちゃん向け「おすすめ本リスト」の作成、配布	市立図書館 健康課
16	◇ミライニベビーハグ	ブックスタート支援事業のフォローアップ ・家庭での乳児への読み聞かせをするための知識と実践(対象：12か月までの乳児と保護者)	市立図書館
17	◇親子ふれあい遊び(9か月児健康相談時)	ブックスタート支援事業のフォローアップ ・親子ふれあい遊びの中での読み聞かせ体験 ・会場での家読おすすめ本の展示・紹介	健康課 市立図書館

②読書習慣継続の支援

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
18	◇家読(うちどく)のPR	・年齢に応じた「家読おすすめ本リスト」の作成・配付、HP等への掲載	市立図書館
19	◇中学生向け「おすすめ本リスト」の作成、配布	・中学生向け「おすすめ本リスト」の作成、市内中学校への配付	市立図書館
20	◇中高生向け図書の充実	・市立図書館内へのヤングアダルトコーナーの設置及び蔵書の充実	市立図書館

21	◇手作りポップでの本の紹介、展示	・市立図書館内へおすすめ本を自らポップで紹介してもらいコーナーを設け、本を読むきっかけづくり、読書意識の向上を図る。	市立図書館
22	◇中高生との連携による図書館企画運営	各校の図書委員や図書館、読書に関心のある生徒によるヤングアダルトコーナー運営への参加、たとえば上記手作りPOP展示や選書など「子ども目線」の活用事業を積極的に企画していく。	市立図書館
23	◇「家読（うちどく）講座」の開催	・家庭での読書活動、読み聞かせの意義や重要性を周知する講座の開催	市立図書館

基本方針3

学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る

①読書環境の充実

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
24	◇市立図書館、児童センター、子育て支援センターの図書の充実と読書環境の整備、貸出の促進	子どもの発達段階に応じた絵本や児童図書、また保護者の子育て支援関連本を充実させる。また、家族でゆとり読書ができる場の整備を行う。	保育子ども園課 市立図書館
25	◇my本棚のレビュー機能の活用	・市立図書館HPの機能。自分が読んだ本の感想等を公開、閲覧することができる（非公開で読書記録として使用することも可能）。本を読むきっかけづくり、読書意識の向上を図る。	市立図書館
26	◇おはなし会・読み聞かせ会	・交流ひろば、子育て支援センターでの絵本の読み聞かせ等の実施 ・図書館ボランティア「あさの葉会」「絵本の部屋」による読み聞かせ会（土曜おはなし会）、図書館スタッフによるおはなし会の実施	保育子ども園課 市立図書館
27	◇ブックスタート読み聞かせボランティアの養成	・ブックスタート読み聞かせボランティア養成およびフォローアップ講座の開催	市立図書館
28	◇読み聞かせボランティア講座（基礎講座・ステップアップ講座）の開催	・読み聞かせに関する講義、実技研修及び読み聞かせ活動での悩み事の相談、解決方法等の指導 ・ボランティア活動の場の提供、支援	市立図書館
29	◇図書館読み聞かせボランティアへの支援	・図書館ボランティア「絵本の部屋」による「絵本の部屋だより」の作成・配付	市立図書館

②学校図書館の充実

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
30	◇学校図書専門員の勤務時間・勤務日数の拡大	学校図書館の本と子どもの「つなぎ役」である学校図書専門員の、子どもと接する時間を確保する。	学校教育課
31	◇司書教諭、図書専門員等教職員の研修の実施	・図書専門員、図書館教育及び読書指導担当教諭を対象にした研修会「図書専門員研修会」「図書館教育・読書指導研修会」の実施 ・市立図書館と連携した研修講師の派遣	学校教育課 市立図書館
32	◇学校図書館蔵書管理システムの更新	管理システムの更新により、より子どもたちの利便性の向上を図る。	学校教育課
33	◇図書館改装を希望する学校への講師派遣等の支援	・図書館環境の整備を行うための支援	学校教育課
★34	学校図書室と市立図書館の連携	・団体貸出	学校教育課 市立図書館

第4次酒田市子ども読書活動推進計画 体系図

計画の目的

子どもが自ら学び、考え、人生をより深くより豊かに生きる力を育む

基本方針

